

# 諦めなければ失敗ではない

にしわき  
西脇市長(兵庫県) **かたやましょうぞう**  
**片山象三**



## 崖っぷちからの挑戦

私はかつて中小企業の経営者でした。昭和58年に大学を卒業後、京都の繊維機械メーカーに就職。

家業が繊維機械商社だったこともあり、平成元年、家業を継ぐために西脇市に戻りました。

本市には、江戸時代中期に京都西陣から織物の技術を持ち帰ったことが起源とされる「播州織」があります。糸を先に染め、染め上った糸で柄を織る「先染綿織物」で国内先染綿織物(シャツ地やハンカチなど)の約6割のシェアを占めています。

明治時代後期、生産数量が急激に増加し、第二次世界大戦後には、「ガチャマン景気」と呼ばれる空前の好況時期を迎えました。

しかし、デフレによる国内事業の低迷や安価な海外製品の流入などにより、生産数



播州織「西脇チェック」

量は昭和62年をピークに大幅に減少、受注の小口化で多品種小ロット化によるコストアップが大きな課題でした。

「多品種小ロットになればなるほどコストダウンができないか？」

繊維に限らずどんな生産現場でも相手にされない発想です。しかし産地を復活させたいとの一心で、無謀とも思える開発に乗り出し試行錯誤の末、地元企業や大学の研究者など、多くの方に助けられてシステムを開発いたしました。完成までに5年もの歳月を要しました。

そして、平成17年にこの生産システムが認められ「第1回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞」を受賞。首相官邸で当時の小泉総理より直接授与していただきました。これまでの苦労が報われた瞬間であり、開発に協力いただいた方々とも分かち合うことができたことは、非常にうれしい出来事でした。この受賞をきっかけに、NHK「プロフェッショナル・仕事の流儀」に出演させていただき、英語版NHK国際放送でも放映されました。その後、この放送を視聴されたヨーロッパやトルコ、南米の織物産地から生産システムの注文をいただいたことから、設置や使い方を説明するため、格安の世界一周航空券で各国を訪問しました。

その中にイタリアのピエラ市がありました。ミラノ市から車で1時間、山間にある



第1回ものづくり日本大賞授賞式

人口4万人強の西脇市とよく似た織物産地です。しかし大きな違いは、世界でも有名なブランド(ゼニア、ロロピアーナなど)の織物工場があり、地元の老若男女が誇りを持って働いておられたことです。その様子を見て私は愕然とし、その後もずっと頭から離れませんでした。

## そして市長に就任

平成25年11月13日。西脇市長に就任しました。



世界を回り、ドイツにて

すが、生産数量は落ち込む状況が続いていました。「播州織を守りたい。なんとかしないといけない」と思っていた時、経済産業省の担当者から言われたことがあります。「イタリア北部の都市ピエラは、人口約4万5000人の毛織物産地であるが、最終製品の出荷割合が6割で、生地（素材）が4割」であると。まさに私が以前から気になっていたことと、この言葉をきっかけに「西脇ファッション都市構想」の取り組みが始まりました。

本市は、兵庫県のほぼ中央部、東経135度と北緯35度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置し、人口約3万7000人の地方都市です。

先に述べたように、本市は播州織の産地です。過去には生産された生地（素材）での出荷割合が99%以上という状況でした。さらに、それらは生地（素材）として出荷されるため、「播州織」としての認知度は低く、播州織をいかに周知していくかが課題でした。産地としての規模が縮小していく一方で、播州織の製品価値は依然として高い水準を保っています。というのも、世界の名だたるブランドと今でも取引があるからです。

このように潜在的な魅力がある播州織で

## 日本の「ピエラ」を目指して

イタリアのピエラとは、規模も近く、同じ繊維産地であるにもかかわらず、本市の播州織は、最終製品の商品企画や製品開発への取り組みが非常に弱いことが分かりました。

これからの産地の在り方として、ピエラのように最終製品の出荷割合を高めていく必要があると考え、生地（素材）が豊富な播州織の強みを活かして、高付加価値な最終製品を生み出す流れを作る必要があると考えました。

生産数量の減少、若手人材の不足という課題に直面する中で、事業者・団体、行政が一つになって播州織の活性化に向けた取り組みである「西脇ファッション都市構想」を折しも、少子高齢化の進展への対応と東京圏への一極集中の是正に向けて、地方創生が進められている中でした。

「西脇ファッション都市構想」の一丁目一番地として取り組んだことは、播州織産地へ移住などでやってくる「若手デザイナー」を受け入れて、ファッションクリエイターに育てる「デザイナー育成支援事業」です。U・I・Jターンなどで、市内の播州織業界で仕事をしながら起業などを目指す人材（若手デザイナーなど）を育成する市内事業者に対し、補助金を交付するもので、平成27年度から令和3年度までに、東京などが



「CONCENT」でのデザイナー育成セミナー

らたくさんの若手デザイナーを市内事業者が受け入れました。

ミシンをはじめとする機材、撮影スペース、資料などを使い、自由に創作活動が行えるコワーキングスペース「CONCENT（コンセント）」を中心市街地に開設し、ものづくりがしやすい環境整備も行いました。

現在は6人のデザイナーが市内で活動し、播州織の振興の一翼を担っています。

「西脇ファッション都市構想」から続く播州織産地の活性化への取り組みに終わりはありません。その先に向け、今後も地域が一体となり、さらなる展開を図ってまいります。